盛り上がった恒例の夏祭りイベント。

特別養護老人ホーム フランセーズ悠**まめじま**

やってきました この季節。ご利用者様も職員も待ちに待っていた、恒例の夏祭り大会の開催です。

午前はＢＢＱ大会を敢行。たっぷりのお肉はもちろんのこと、ご利用者様がベランダのプランターで育てた、なす、きゅうり、ピーマン等のお野菜がずらりとバーベキューグリルの上に並びます。

ジューシューと焼き始めると、お肉の美味しい香りが周囲に立ちこめます。ほどよく焼けたお肉を職員がひと口サイズに切り分けて、お野菜といっしょに、手際よくお皿に盛っていきます。「お肉をもっと頂戴～！」と次から次におかわりの声。お年を召しても、男女を問わず、お肉は、やっぱり大好きなんですね。

午後をはさんで盆踊り大会。炭坑節、花笠音頭、びんずる、大豆島甚句と盆踊り定番のメロディがスピーカーから流れ、職員とご利用者様がいっしょに和気あいあいと踊ります。

陽が沈む頃、ラストイベントは花火大会です。ご利用者様に喜んでいただきたいという一心で、職員が身体を張った花火パフォーマンスを繰り広げます。曲芸のような花火パフォーマンスに、ご利用者様は拍手喝采。最後は、皆様のご健康を祈りまして、万歳三唱で締めくくりました。

イベント歳時記（7月～9月）

8月6日◆すいか割り大会
8月22日◆真夏の夏祭り大会
9月15日◆敬老会
9月19日◆ご利用者様と保育園児との交流会
9月30日◆居酒屋「まーちゃん」開店
ケアハウス秋の小旅行

地元へ帰ろう！

特別養護老人ホーム フランセーズ悠**さかえ**

野沢温泉村湯澤神社のお祭りへ出かけて来ました。野沢温泉村が地元のご利用者様6名と付き添いの職員6名、総勢12名です。浴衣や甚平に着替え、夕方5時に出発し、現地へ。屋台は並んでいますが、まずは食堂で腹ごしらえです。それぞれの方がお好きな物を注文し、「いける口」の方はビールや日本酒で、気分を味わいたい方はノンアルコールビールで、乾杯！

皆さん、さすが地元です。そぞろ歩けば、ご近所さんや顔馴染みの方に会い、話が弾んだり笑顔で挨拶したり、お孫さんとバッタリ遭遇し、一緒に写真を撮ったり、そんな懐かしい時間を過ごしていると…「どーん」と言う音とともに夜空に花が咲きました。

少し肌寒い夜でしたが、皆さんそれぞれ長年過ごした地元を懐かしんで楽しまれた様子でした。とても良い表情になって、施設へ帰ってこられます。

「おかえりなさーい」と職員がお迎えすると「ただいま～。よかったよ～」と返事をして下さいます。

施設が第二の家になってくれているといいのですが…と思うばかりです。

イベント歳時記（7月～9月）

7月3日◆厨房スタッフと調理「ジャガイモの煮っころがし」
7月9日◆出張ラーメン「るるも」
7月13日◆居酒屋「悠子」
8月10日◆栄樹祭
8月20日◆絵手紙教室
8月23日◆居酒屋「悠子」
9月5日◆居酒屋「悠子」
9月10日◆出張ラーメン「るるも」
9月15日◆敬老会
9月25日◆笑ってみる会ボランティア「笑み筋体操」
［毎週木曜午前　喫茶］

『園芸クラブ』活動の後…

特別養護老人ホーム フランセーズ悠**とみたけ**

7月29日(火)、今年度第3回目のクラブ活動が行われました。

第1回目は、クラブ活動に必要な材料や花の苗などの購入に出掛け、第2回目は、購入した苗をプランターに植える活動を行ってきました。

第3回目となる今回は、2階のウッドデッキにて植えたお花の手入れと、押し花作りを行いました。綺麗なお花に触れてとても素敵な表情を撮影することができました。

活動の後は、手入れしたお花を愛でながら、お茶やおやつを召し上がっていただこうということで、今回は、かき氷をご用意させていただきました。

職員のお父様所有の風情が感じられるかき氷機をお借りして、氷を削りました。

このかき氷機が優れもので、まるで天然氷で作るかき氷のように"フワフワ"に氷が削れました。

写真でフワフワ感が伝わるかどうかわかりませんが、上からシロップかけるとサラサラと崩れてしまうのです。

ご利用者様にも大好評で、かき氷を食べるためだけに並ばれた方もいらっしゃったそうです。

イベント歳時記(7月～9月)

7月26日◆あさひ・ふるさと夏祭り2014参加
7月29日◆園芸クラブ
8月3日◆打ち水大作戦&避難訓練
8月23日◆Summer Carnival 2014
9月16日◆敬老祝賀会&園芸クラブ
10月4日◆フリーマーケット開催
◆歌声喫茶

ご利用者様の元気の源になれるように

グループホーム フランセーズ悠**やなぎはら**

7月下旬、梅雨がようやく明けた、ある1日の様子。朝、起きたら、ご自分で身だしなみを整える方がいらっしゃいます。日中は新聞や雑誌を見て過ごしたり、家事仕事をお手伝いしていただいたり…夕食後はお茶を飲みながら、のんびり、テレビを見て過ごしていただいています。時には、こんな小さな赤ちゃんのお客さまも!!これには、みなさまもうメロメロです。ちいさな変化にも笑って楽しく過ごしていただくことが、元気の源のようです。そして、いちばん大事な元気の源というと…やっぱり、ご家族さまと過ごしていただく時間です。

7月19日、家族会を開き、ご家族さまにも、日頃のホームの取り組みについてお聞きいただき、その後に一緒にお食事を召し上がっていただきました。今回もたくさんのご家族様にお越しいただき、とても、にぎやかな会となりました。

一緒にお食事をしていると…「これ、食べなさい」と、ご自分のエビフライを息子様にあげていらっしゃいます。いくつになっても"親と子"なのだなぁ…と微笑ましく思えました。

私たち職員も、皆さまの元気の源になれるよう頑張りたいと思います!

イベント歳時記(7月～9月)

7月23日◆家族会
9月27日◆中俣区秋祭り しし舞い

～知らないからこそ、耳を傾け、学ぶ価値がある～

博悠会主催特別講演会

博悠会では、昨年、法曹界の最前線で活躍されている方々を特別講師にお迎えして、危機管理意識の向上をめざした特別講演会を開催いたしました。好評につき、今年も長野市内のホテルを会場に開催いたしました。東京地方検察庁特捜部と法務省入国管理局それぞれの部署で活躍されている講師による二部構成の特別講演会です。

私たちには、日頃、知り得ない小さな疑問があります。たとえば、テレビのニュース報道でしか見たことのない特捜部ですが、実際にどのような活動をされているのか。また、外国人観光客は1000万人を突破しましたが、このまま増え続けていくのか。このような特定の分野で豊富な知識と経験を持つ専門家によるご講演は、メディアでは報道されない情報が多く、ひと言も聞き漏らすまいと参加者は熱心に耳を傾けていました。特別講演会に参加した博悠会職員の自主的な自己研鑽の姿勢は、必ず、ご利用者の皆様へのサービス向上につながるものと確信しています。

「特捜部とこれからの科学捜査」

講　師

東京地方検察庁特捜部
岡本 洋之 検事

ニュースで報道されたいくつかの事件に、岡本講師は実際に関与されています。具体的にどのような捜査が行われたかを紹介しながら講演が進みます。ある政治家が関与した贈収賄事件では、銀行口座の出入金の調査とパソコンデータの解読というデジタル的な調査によって、犯人を追い詰めていきました。また、ある殺人事件では、被疑者が使っていたパソコンから「血の臭い消す」「海岸白骨」などの検索ワードを見つけました。

そこで海岸を徹底的に探索したところ遺体を発見。さらにスマートフォンのバックアップデータに札束の写真を発見するなど、科学捜査は、通常の取調べと並行しながら、難しい事件を解決に導く有効な手段となりました。岡本講師は、会場のスクリーンに様々な画像や時には映像を映しながら話され、そのスマートで軽快な語り口も印象的でした。

「観光立国の推進とこれからの出入国管理行政」

講　師

法務省入国管理局総務課長
菊池 浩 検事

菊池講師の勤務している入国管理局では、さまざまな業務を手がけています。参加者全員に配布したパンフレットに沿って、丁寧な説明がなされました。いま日本に在留している外国人は約200万人です。今後、2050年の日本は一人の高齢者を一人の若者が支える肩車型社会が予想されていますが、その対応策として、外国人の受入れも大きな課題として慎重に検討されているとのことです。

外国人の就労問題にも触れ、正しい在留についての解説をしていただきました。また外国人観光客2000万人をめざす国家戦略についても、ビザ免除や治安への配慮、日本の魅力をどのように伝えるか等、さまざまな議論が交わされているようです。最後に国際空港の自動化ゲートのお話、そして入国審査官にも笑顔の対応、ホスピタリティが問われていると述べられました。

編集後記

夏から秋は、お盆や夏祭り、敬老の日など、沢山の行事がそれぞれの施設で開催されました。職員一同、心を込めて、お一人お一人に接しております。また、学びの場である講演会にも意欲的に参加し、日々、自己研鑽に励んでいます。悠ゆう通信では、そうした活動のほんの一部を紹介していますが、楽しんでいただけたでしょうか。皆様からのご意見ご感想をお待ちしています。

～知らないからこそ、耳を傾け、学ぶ価値がある～

博悠会主催特別講演会

博悠会では、昨年、法曹界の最前線で活躍されている方々を特別講師にお迎えして、危機管理意識の向上をめざした特別講演会を開催いたしました。好評につき、今年も長野市内のホテルを会場に開催いたしました。東京地方検察庁特捜部と法務省入国管理局それぞれの部署で活躍されている講師による二部構成の特別講演会です。

私たちには、日頃、知り得ない小さな疑問があります。たとえば、テレビのニュース報道でしか見たことのない特捜部ですが、実際にどのような活動をされているのか。また、外国人観光客は1000万人を突破しましたが、このまま増え続けていくのか。このような特定の分野で豊富な知識と経験を持つ専門家によるご講演は、メディアでは報道されない情報が多く、ひと言も聞き漏らすまいと参加者は熱心に耳を傾けていました。特別講演会に参加した博悠会職員の自主的な自己研鑽の姿勢は、必ず、ご利用者の皆様へのサービス向上につながるものと確信しています。

「特捜部とこれからの科学捜査」

講　師

東京地方検察庁特捜部
岡本 洋之 検事

ニュースで報道されたいくつかの事件に、岡本講師は実際に関与されています。具体的にどのような捜査が行われたかを紹介しながら講演が進みます。ある政治家が関与した贈収賄事件では、銀行口座の出入金の調査とパソコンデータの解読というデジタル的な調査によって、犯人を追い詰めていきました。また、ある殺人事件では、被疑者が使っていたパソコンから「血の臭い消す」「海岸白骨」などの検索ワードを見つけました。

そこで海岸を徹底的に探索したところ遺体を発見。さらにスマートフォンのバックアップデータに札束の写真を発見するなど、科学捜査は、通常の取調べと並行しながら、難しい事件を解決に導く有効な手段となりました。岡本講師は、会場のスクリーンに様々な画像や時には映像を映しながら話され、そのスマートで軽快な語り口も印象的でした。

「観光立国の推進とこれからの出入国管理行政」

講　師

法務省入国管理局総務課長
菊池 浩 検事

菊池講師の勤務している入国管理局では、さまざまな業務を手がけています。参加者全員に配布したパンフレットに沿って、丁寧な説明がなされました。いま日本に在留している外国人は約200万人です。今後、2050年の日本は一人の高齢者を一人の若者が支える肩車型社会が予想されていますが、その対応策として、外国人の受入れも大きな課題として慎重に検討されているとのことです。

外国人の就労問題にも触れ、正しい在留についての解説をしていただきました。また外国人観光客2000万人をめざす国家戦略についても、ビザ免除や治安への配慮、日本の魅力をどのように伝えるか等、さまざまな議論が交わされているようです。最後に国際空港の自動化ゲートのお話、そして入国審査官にも笑顔の対応、ホスピタリティが問われていると述べられました。

編集後記

夏から秋は、お盆や夏祭り、敬老の日など、沢山の行事がそれぞれの施設で開催されました。職員一同、心を込めて、お一人お一人に接しております。また、学びの場である講演会にも意欲的に参加し、日々、自己研鑽に励んでいます。悠ゆう通信では、そうした活動のほんの一部を紹介していますが、楽しんでいただけたでしょうか。皆様からのご意見ご感想をお待ちしています。